

◎高齢者活動の経費

高齢者活動運営事業 【 高齢者いきいき課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 80歳、90歳、100歳以上の者及び公的年金を受給することができない外国籍市民の高齢者

意図 長年にわたり社会に貢献した高齢者に対して敬愛の意と長寿を祝し、また公的年金を受給できない外国籍市民に給付金を支給することにより福祉の向上を図るため。

効果 長寿のお祝いをすること及び外国籍無年金高齢者の福祉の向上

【事業の内容】

(1) 高齢者活動運営事業

- ・長寿のお祝いとして 80歳、90歳、100歳以上の高齢者に対し、祝品を贈った。

(2) 外国籍等高齢者福祉給付金支給事業

- ・受給者に、月額20,000円を年2回(9月・3月)支給した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
11,409	11,409	10,153		1,256
主な支出内訳				
・ 高齢者活動運営事業				
敬老祝品				
100歳以上	72人	× 4,000円		288
90歳	436人	× 4,000円		1,744
80歳	1,579人	× 4,000円		6,316
・ 外国籍等高齢者福祉給付金支給事業				
福祉給付金				1,680
主な特定財源				
・ 国県支出金				840

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-18 高齢者活動運営事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	888	高齢者活動運営事業				
		922	外国籍等高齢者福祉給付金支給事業				
主管課	高齢者福祉課(高齢者いきいき課)			関連課			
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	多年にわたり社会に尽くしてきた高齢者への敬意と長寿の祝 制度的無年金外国籍市民への福祉的給付						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	10,153千円	9,874千円	12,188千円			
	(国・県)	840千円	800千円	1,161千円			
	(負担金等)						
	(一般財源)	9,313千円	9,074千円	11,027千円			
	人員配置数	0.7人	0.4人	0.7人			
	人件費	6,600千円	3,840千円	6,443千円			
協働の パートナー							
事務事業 運営経費	総事業費	16,753千円	13,714千円	18,630千円	H20 対象者数 敬老祝い事業対象者数 : 2,087人 外国籍等高齢者福祉 給付金事業対象者数 : 7人		
	市民1人当 りの経費	95円	78円	107円			
	対象者1人 当りの経費	8,000円	7,143円	10,175円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
敬老祝い事業実績	◎	目標値	2051	2132			
		実績値	2008	2087			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 祝品の贈呈時期についての検討。 近隣市の状況を調査し、対象年齢の見直しを検討。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 祝い品の贈呈時期については、対象者の誕生日に贈呈することも検討したが、2,000人以上の対象者ひとりひとりに祝い品の贈呈することは現実的には難しく、例年どおり敬老の日に贈呈して見直しについても、近隣市の状況を調査し、各市の対象年齢、祝い金品の内容を把握した中で、前年と同じ対象年齢、祝い品を贈呈した。 事業実施後のアンケートにおいても、概ね好評である。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 祝品の贈呈時期についての検討。 対象年齢の見直しを検討。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 事業内容の見直し。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	長年社会に貢献してきた高齢者へ敬意を表することを引き続き行っていく。		
担当課長氏名:	高齢者いきいき課長 野田 充博		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	一定の時期に対象年齢の見直しを図るべきである。		
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子